



教育目標

- 自ら探求的に学ぶ生徒
- 礼儀正しく、節度ある生活をする生徒
- 健康で、安全な生活をする生徒
- ◇ 自分に自信を持ち、行動できる生徒（今年度重点目標）



浪江中針道校舎

「だれかのために」を考えること それが「思いやり」…

最近のニュースを見て、「あれっ、何か自己中心的な考えで起きた事件が多いな」と感じていました。そこで、「思いやり」って何だろうと考えてほしくて、今回の号を発行させていただきます。以下は福島県教育委員会発行の「ふくしまの道徳教育資料集 第三集」からの抜粋です。

〈新聞記事より〉

仮設から命のおにぎり ～福島国道、大雪で立ち往生 飯館村民届ける～

大雪で多くの車が立ち往生した福島市の四号国道で16日、沿道の仮設住宅に暮らす飯館村民がおにぎりを炊き出し、飲まず食わずのドライバーたちに次々と差し入れた。持病のため運転席で意識を失いかけていた男性は19日、取材に「命を救われた思いだった」と証言。東京電力福島第一原発事故に伴う避難が続く村の人たちは「国内外から支援を受けた恩返しです」と振り返った。

三春町のトラック運転手増子さんは15日、配送を終え、郡山市の会社に戻る途中だった。激しい雪で国道は渋滞。福島市松川町で全く動かなくなった。16日昼ごろ、糖尿病の影響で頭がぼーっとしていた。窓をノックする音で気がつく「おにぎり食べて」と差し出された。

国道を見下ろす高台にある飯館村の仮設住宅の人たちだった。前日から同じ車がずらりと止まり続けているのに女性たちが気づき、炊き出しを提案。富山県高岡市の寺から仮設に届いていたコシヒカリを集会所で炊き、のりと梅干しを持ち寄って20人ほどで約300個握った。

炊きたてが冷めないようにと発砲スチロールの箱に入れ、1メートル近い積雪の中、一人一個ずつ渡して回った。増子さんは「温かくて、おいしくて、一生忘れない。仮設で厳しい暮らしだろうに、こうして人助けをしてくれて頭が下がる」と感謝した。

増子さんの話を伝え聞いた仮設住宅の婦人会長佐藤さんは「震災からこれまで、数え切れないほど多くの人に助けられてきた。またあしたから頑張ろうと、私たちも励みになりました」と話している。

「福島民報」「福島民友」2014年2月20日掲載



「だれかからのありがとうが何よりうれしい」。思いやりの根っこは、ここなのかもしれませんね。